



武豊町 散策路整備計画

ウォーカブルなまちなか形成による
心つながり みんなでつくる
スマイルタウン

概要版

令和5年3月

武豊町

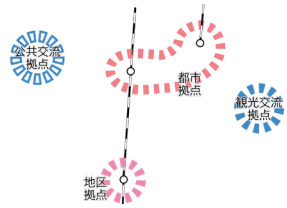


目的

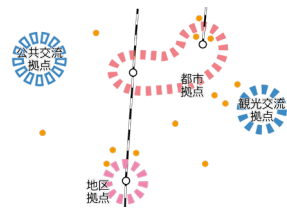
本町では、「官民一体となって魅力的な公共空間を確保し、多様な人々の出会い・交流の場を提供する居心地が良く歩きたくなるまちなか」の創出や、国が示している車中心から人中心の空間に転換する「歩いてまちを楽しめるウォカブルなまちづくり」を推進するため、過度に自動車に頼らないゼロカーボンの取組の一つとして、武豊町散策路整備計画を策定します。

ウォカブルルート・散策エリアの設定

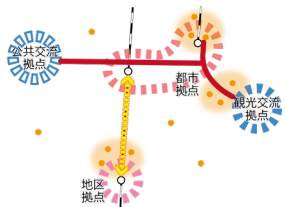
Step1 拠点を整理



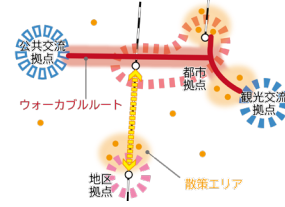
Step2 資源を抽出



Step3 拠点和資源を結び



Step4 ウォカブルルートと散策エリアを設定

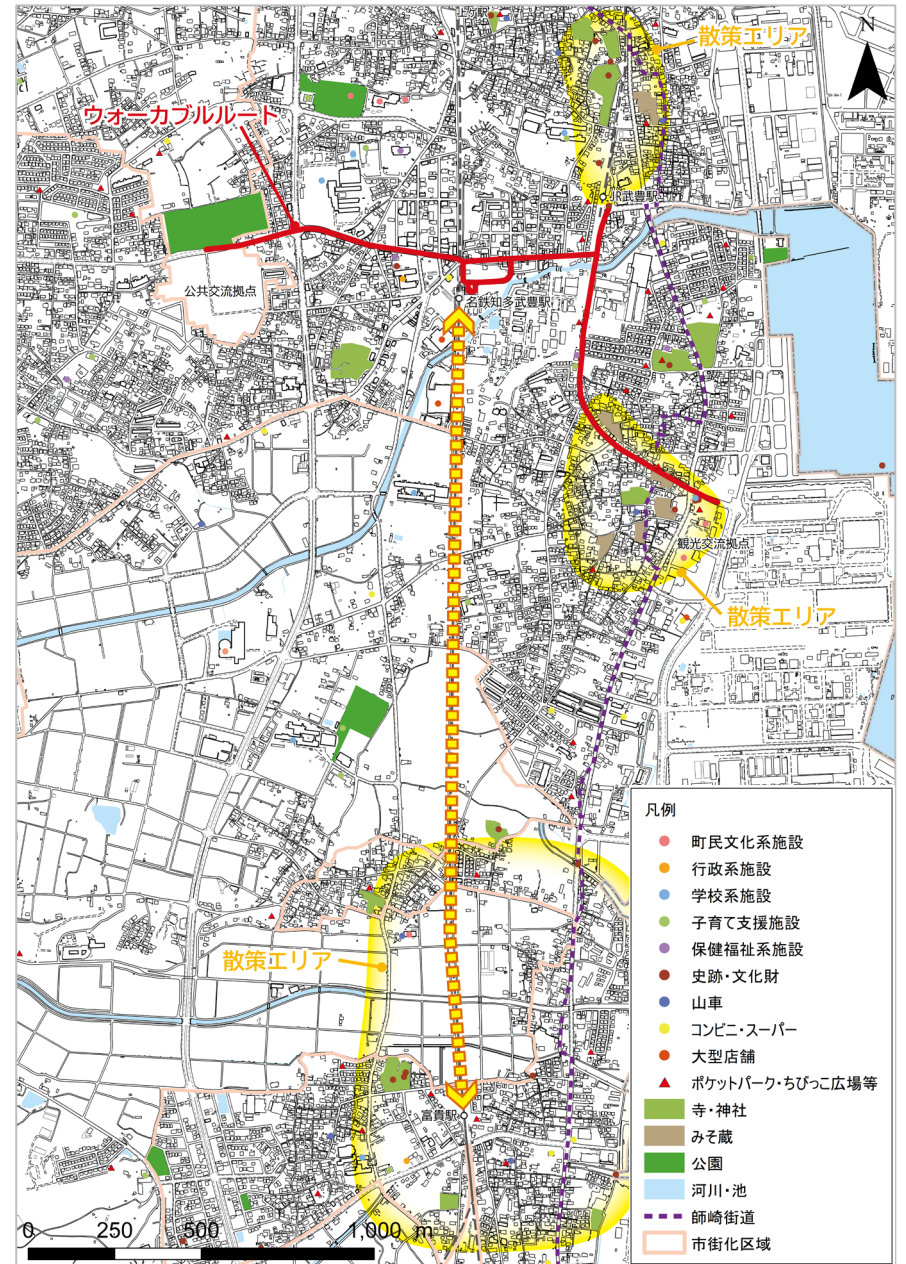


ウォカブルルート

ウォカブルなまちなかの形成の実現に向けて、にぎわいに資する拠点をつなぐルートとして、多くの人々が多様な目的をもって歩くことを目指すルート

散策エリア

ウォカブルルートからの連続性を保ちながら、地域資源等の魅力を感知しながら歩き、まちなかの回遊性が広がることを想定されるエリア



■ウォーカブルな空間を構築する基本要素

リンク(通行)機能



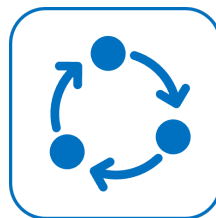
公共交通・乗用車・貨物車・自転車・徒歩等で目的地までの移動が行われる、人やモノが移動するための機能

プレイス(滞在)機能



立ち止まる・座る・食べる・遊ぶ・買い物をする等の活動が行われる、多様な活動を繰り広げる場としての機能

回遊性



本町固有の資源等を訪れる機会を促す、まちなかを散策することを楽しむ機能

官民連携



沿道の土地利用と一体となった魅力的な空間づくりに向けて働きかけをする機能

■具体的な整備手法 ※主な整備手法のイメージ

リンク(通行)機能

①歩道の段差を解消する



⑥歩道と車道間に緩衝空間をつくる



⑦高質な歩行空間をつくる



プレイス(滞在)機能

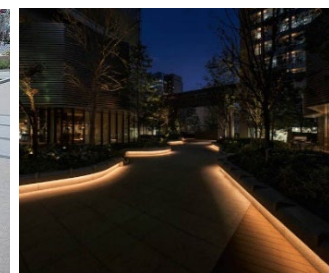
⑩オープンスペースをつくる



⑪ストリートファニチャーを置く

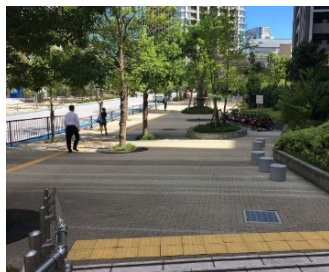


⑫灯りをともし



回遊性

⑬公園との連続性を高める



⑱まちの資源を見える化する

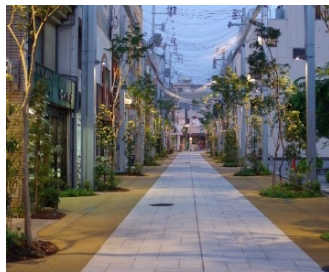


⑳まち歩きのかきつけをつくる



官民連携

⑳沿道に緑を増やす



㉑街路への開放性を高める



㉒建物内を見える化する





■ウォーカブルルートの整備方針

1. 連続する一体的な空間の整備

通行空間（リンク機能）と滞留空間（プレイス機能）を連続的に整備することにより、より自由度の高い歩行空間を創出するとともに、歩道内にファニチャーを効果的に配置し、沿道の土地利用とも一体となった歩き続けたいくなる景観を創出します。

2. 安全安心の向上につながる整備

地域住民や来訪者にとって、いつでも安全安心に利用できる歩行空間となるように配慮して整備することにより、子どもから高齢者まで誰もが快適に利用することができるような、地域の安全性と防犯性の向上に寄与します。

3. 既存ストックを活かした整備

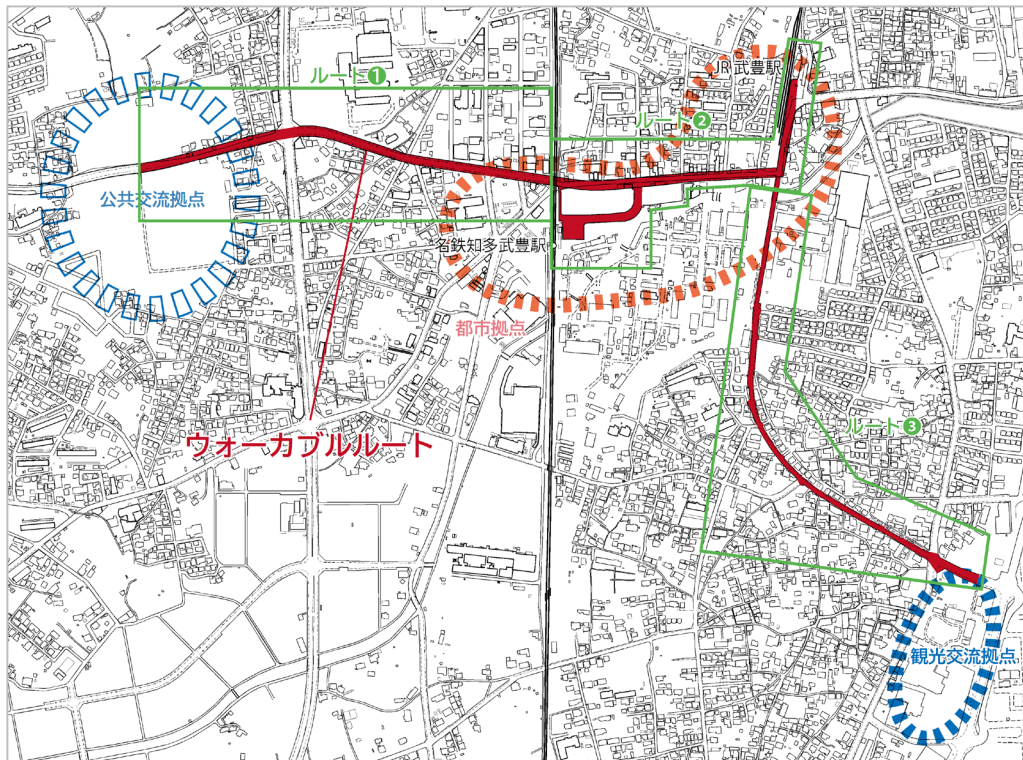
これまでの散策路整備における既存の施設類については、必要な補修・修繕・更新を目的として整備することにより、できる限り活用し、魅力を引き出せるようにするとともに、歩行空間周囲の緑や水等の環境を取り込み、心地よい空間を創出します。

4. 歩行空間の利用を促す取組の実施

地域住民や来訪者にウォーカブルルートの存在と対象地域の魅力を伝えることにより、多くの人々が訪れ、多様な交流を育むことにつながり、また、歩行空間を継続的に利用することを促すことで、地域の愛着を醸成します。

<整備の段階的プロセス（ロードマップ）>

	前期 (2023(令和5)～2030(令和12)年度)	後期 (2031(令和13)年度～)
ルート①	(都)武豊港線整備・無電柱化 (武豊中央公園～(都)知多東部線) 事業化 (滞留空間[ベンチ、テーブル等]の設置、 照明灯の配置、隣接する公共空間の活用 等) 地域との協体制づくり	
ルート②	知多武豊駅東土地区画整理事業 JR 武豊駅前広場整備 (都)武豊港線整備・無電柱化	
ルート③	町道金下・里中第1号線整備 地域との協体制づくり(継続的な利活用イベント等) ポケットパーク整備	事業化 (舗装の高質化、植栽、案内・誘導 サインの拡充 等)



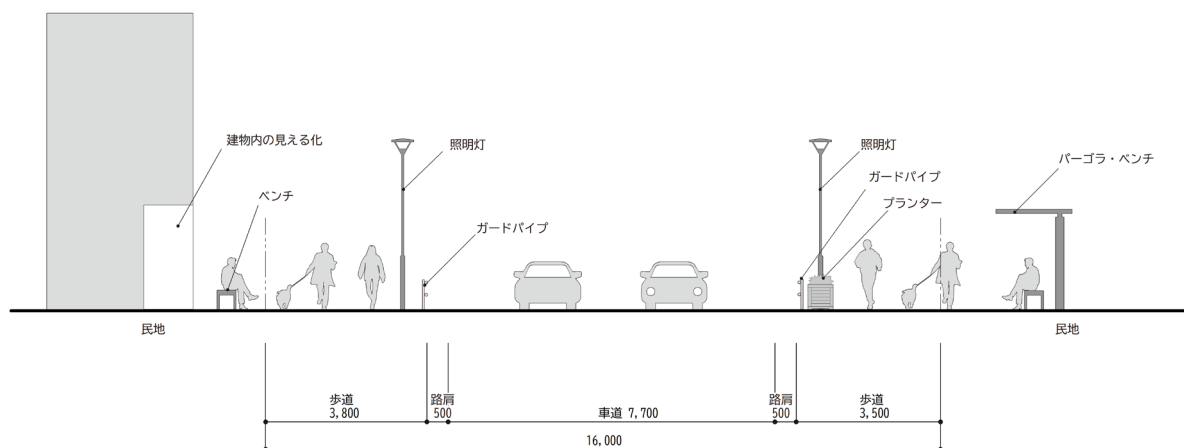
<課題>

- 坂道における歩行者への配慮が不足している。
- 駅や公園と歩行者空間の連続性がなく、分節されている。
- 公共空間が有効に活用されていない。
- 沿道の店舗等との一体的な魅力ある空間へと転換が必要。

<整備の方向性>

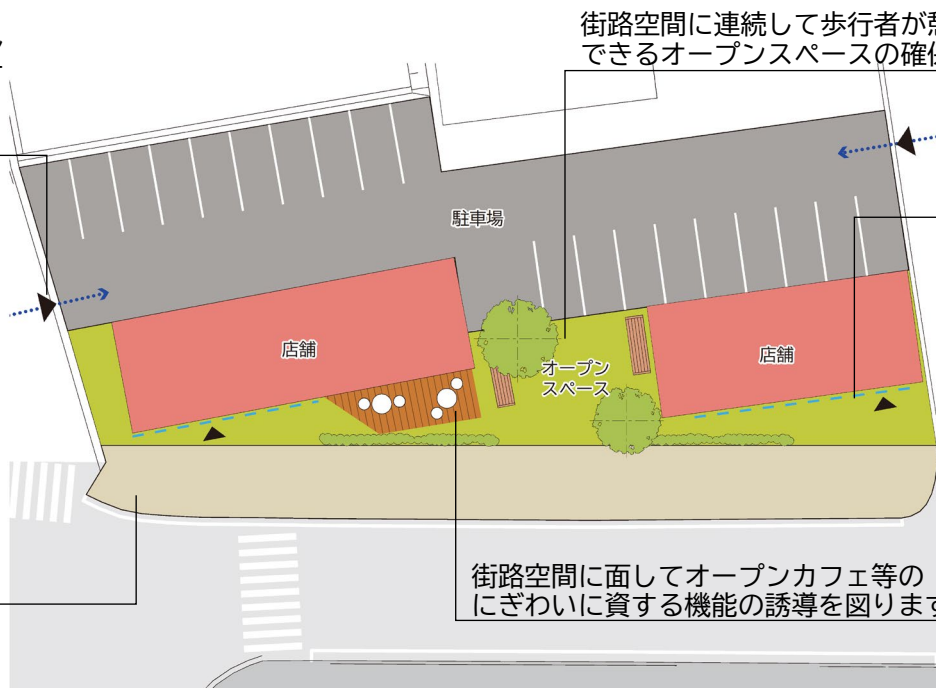
- 公共交流拠点とにぎわい創出エリアを結ぶ多くの人々が往来することを踏まえた空間づくり
- 武豊中央公園を中心とした、緑あふれる空間づくり
- 坂道であることを考慮し、新たな移動手段を踏まえた街路空間づくり

<整備計画断面図>



■消防署跡地活用案（ウォーカブルな空間創出における沿道土地利用のモデル案）>

駐車場の出入口はウォーカブルルート上ではなく、側道側に設けて歩行者との交錯を避けるようにします。



街路空間に連続して歩行者が憩うことができるオープンスペースの確保を誘導します。

街路空間に対しては建物の中の様子も伺うことができるガラス張り等による建物内の見える化を誘導します。

高質な街路空間となるようインターロッキング舗装等を用いて整備します。

街路空間に面してオープンカフェ等のにぎわいに資する機能の誘導を図ります。





〈整備方針と整備イメージ〉

民有地における店舗等については、建物1階部分の見える化や、店先でのテラス席、ベンチの設置等のオープンスペースを設けることを促し、官民連携を図りながら沿道と一体的な空間を創出します。

連続した坂道に対し、滞留空間を適所に整備して、歩行者に配慮した空間をつくります。滞留空間は、坂道に対して平坦になるように整備し、ベンチやテーブル、案内看板等を新たに設置して、歩行者が憩い、くつろぐことができる空間を創出します。

夜間の安全性に配慮して照明灯を適切に配置し、誰もが見やすい光源を用います。



駐車場の出入口部での歩行者と車の交錯をなるべく避けるために、駐車場の集約化や出入口部を側道に設ける等の配慮を誘導します。

舗装を車道部分と区別し、階段や手すり等の坂道への配慮、細かな段差の解消等のバリアフリーにも対応した空間として計画します。

■ルート②の整備計画 名鉄知多武豊駅～JR 武豊駅（延長 約 590m）

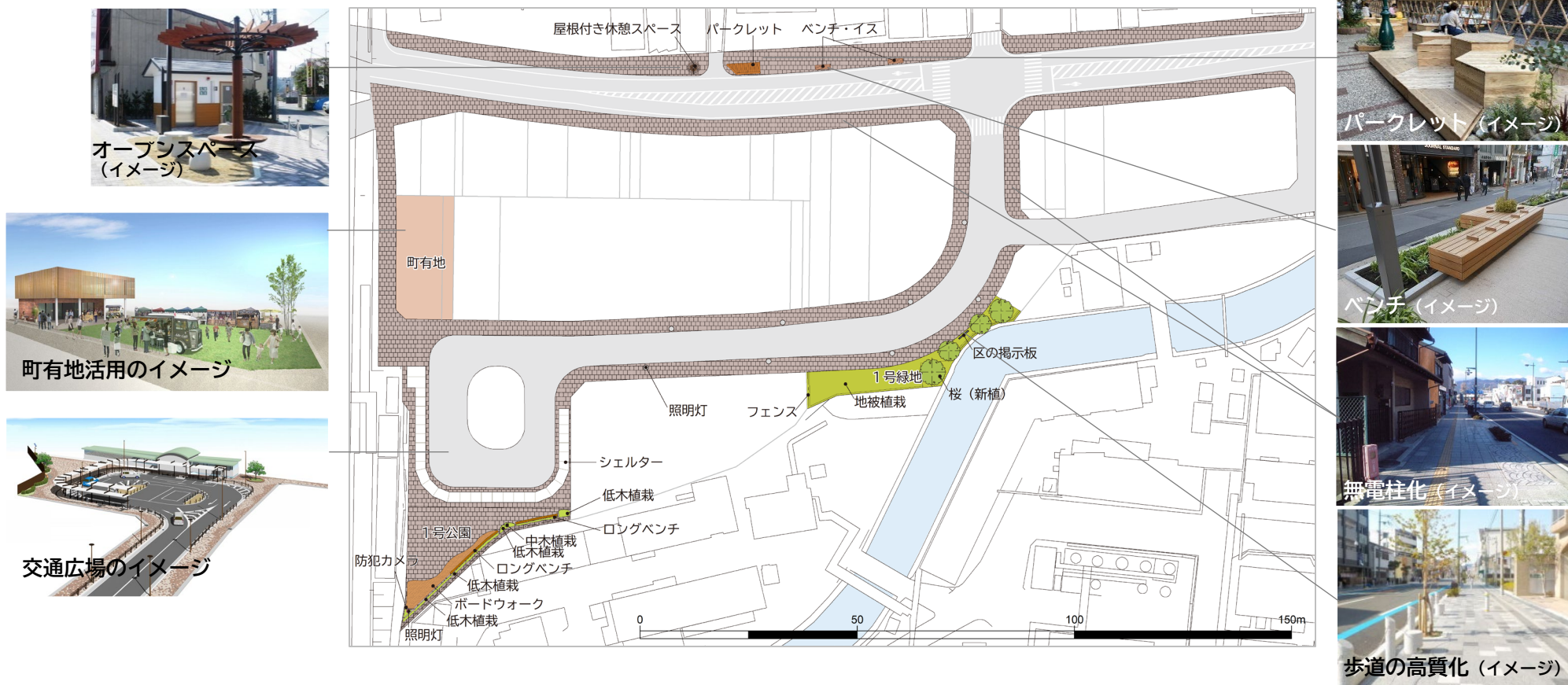
<課題>

- 安全に通行できる幅員のある歩行空間となっていない。
- 商業機能の衰退等、駅前に関わらず人を呼び込むような活力ある土地利用となっていない。
- 今後予定される事業化を契機とし高質な空間を活かす仕掛けづくりが求められる。

<整備の方向性>

- メインストリートとしての武豊らしさを表す空間づくり
- 商店街として、歩いて買い物、飲食等を楽しむことができる空間づくり
- (都)武豊港線の整備を契機とした官民連携による沿道と一体的な空間づくり

<整備案 平面図>





〈整備方針と整備イメージ〉



■ルート③の整備計画 堀川橋～観光交流拠点(延長 約920m)

<課題>

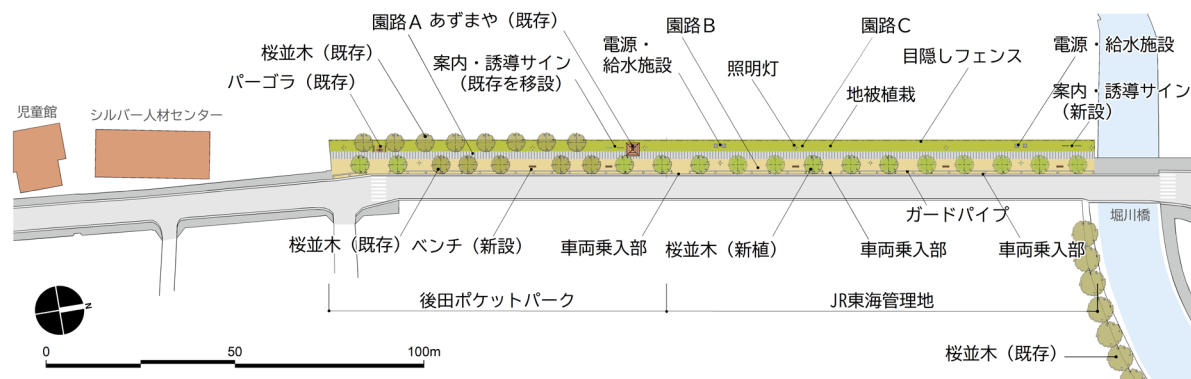
- 施設類の劣化や老朽化が進行している。
- 歩行者空間が分節されている。
- 安全性・安心感が不足している。
- 地域のポテンシャルが活用されていない。

<整備の方向性>

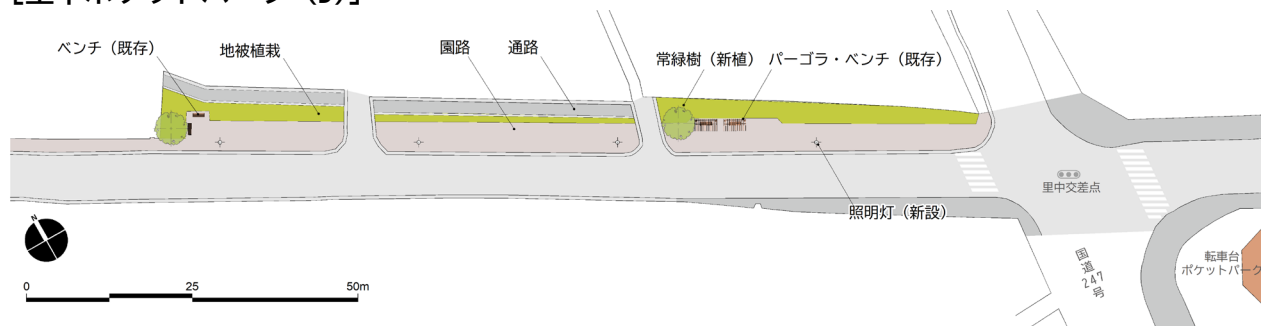
- 住宅地が隣接するため、地域住民が憩うことのできる空間づくり
- みそ蔵のまちなみの景観や鉄道敷きであった歴史を感じることができる空間づくり
- 既存のポケットパークの活用を促進する空間づくり
- 観光交流拠点とつながり、歩くことや健康づくりを誘発する空間づくり

<整備案 平面図>

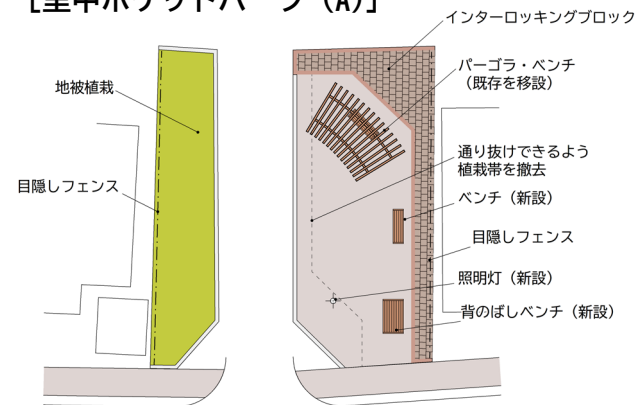
[後田ポケットパーク・JR 東海管理地]



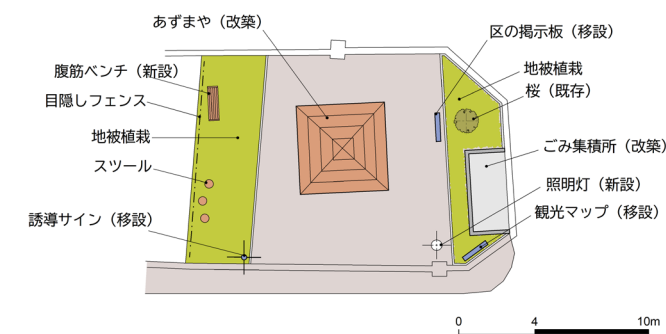
[里中ポケットパーク (D)]



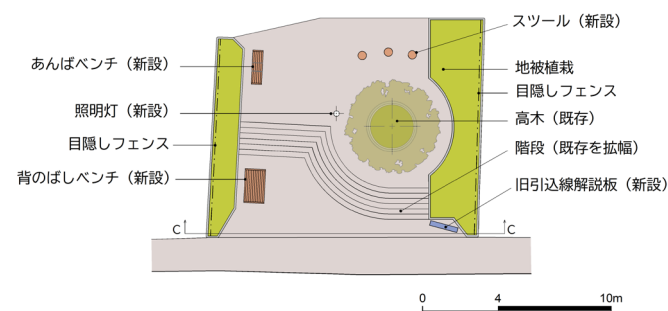
[里中ポケットパーク (A)]



[里中ポケットパーク (B)]



[里中ポケットパーク (C)]





〈整備方針と整備イメージ〉

【後田ポケットパーク・JR 東海管理地】

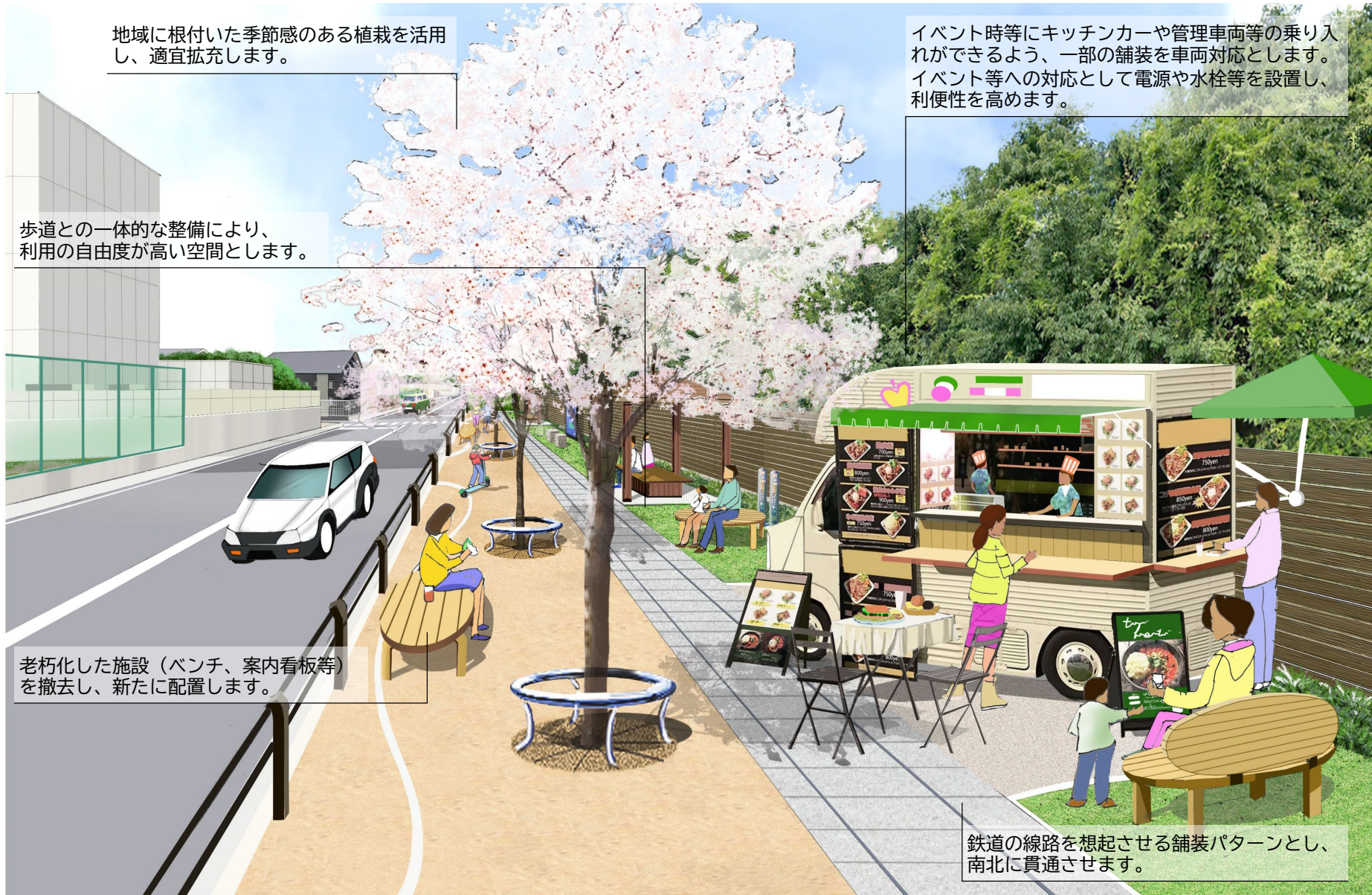
地域に根付いた季節感のある植栽を活用し、適宜拡充します。

歩道との一体的な整備により、利用の自由度が高い空間とします。

老朽化した施設（ベンチ、案内看板等）を撤去し、新たに配置します。

イベント時等にキッチンカーや管理車両等の乗り入れができるよう、一部の舗装を車両対応とします。イベント等への対応として電源や水栓等を設置し、利便性を高めます。

鉄道の線路を想起させる舗装パターンとし、南北に貫通させます。



パーゴラやベンチ等既存のファニチャー類を活用します。

成長した高木はできるだけ残し、繁茂した下枝を除去する等、見通し・風通しを確保する管理を行います。
一部の中高木を撤去し、明るく見通しの良い空間とします。

拠点から散策路方面への誘引を図る景観を創出します。
また、観光交流拠点を起点とした歩くことや健康づくりを目的とした仕掛けづくりをします。



植栽帯を縮小して園路を拡大することで、通り抜けのしやすい平面配置として改善します。





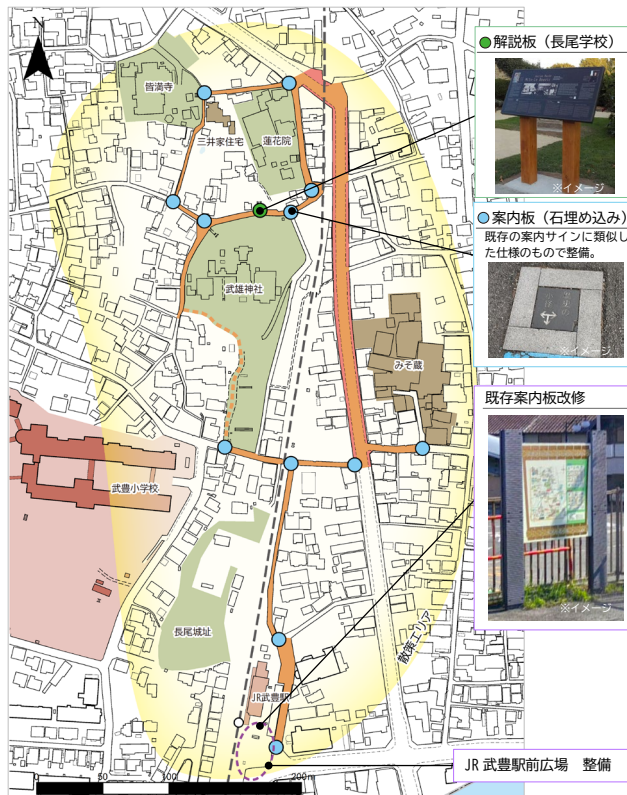
■散策エリアの整備計画

<整備の方向性>

- 公園等の既存ストックを活かした良好な住環境を守る、落ち着きある空間づくり
- まちなかの回遊性を高め、分かりやすい誘導・案内ができる空間づくり
- 地域資源の魅力伝え、歩ききっかけをつくり出す空間づくり

<整備方針>

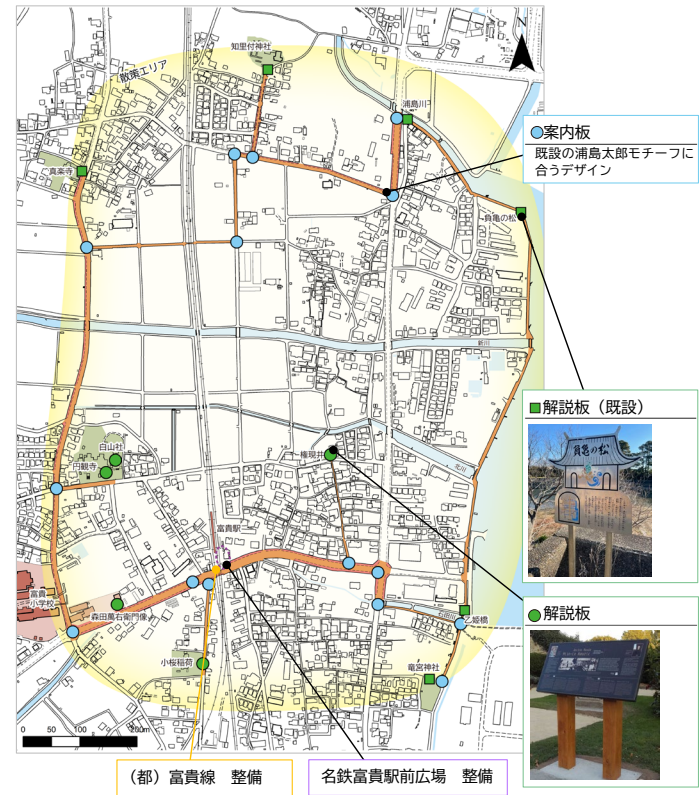
[北部エリア]



[東部エリア]



[南部エリア]



<整備の段階的プロセス（ロードマップ）>

散策エリア	前期 (2023(令和 5)～2030(令和 12)年度)		後期 (2031(令和 13)年度～)
	北部	<u>サイン（案内板等）整備</u>	地域との協体制づくり(散策イベント等)
東部	<u>サイン（案内板等）整備</u>	地域との協体制づくり(散策イベント等)	
南部	<u>サイン（案内板等）整備</u>	地域との協体制づくり(散策イベント等)	

武豊町散策路整備計画
令和5年3月策定
武豊町役場 建設部 都市計画課

